わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより51

池田市の誕生

今年は池田市市制施行70周年に当たります。そこで今回は、今から70年前の昭和14年（1939）にタイムスリップして、池田市誕生の歩みをご紹介しましょう。

▲池田市役所の看板の揮毫（戸田洋氏提供）

町から市へ

昭和14年2月11日、公会堂で開かれた池田町会は賛成多数で市制施行の上申を可決し、25日には上申書を大阪府を通じ内務省に提出しました。4月7日に内務省地方局の視察を受け、12日には内務大臣から、「町を廃し、その区域をもって池田市を置（と）かんとす。よって町会の意見を諮（はか）う」という諮問書が大阪府参事会と池田町会に送付されてきました。町会は全会一致で賛成の答申書を可決し、即座に大阪府に提出しました。大阪府では参事会の可決後、知事名で内務省に提出しました。

こうして、昭和10年の池田町・細河村・秦野村・北豊島村一町三村合併から4年目にして、池田市が誕生することになりました。大阪府内では大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、布施市（現東大阪市）に続く6番目、全国では49番目の市制施行でした。市行政の中心となる市役所は、町役場の建物をそのまま使用し、正面入り口の看板は、「池田市役所」と付け替えられました。

けふ誕生

『大阪朝日新聞』昭和14年4月28日付には「池田町よ！さらば　きのふ感慨の廃町式挙行」、翌29日付には、「われらの池田市けふ誕生」と写真入りで大きく報道され、5・6・7面にわたって大特集が組まれました。

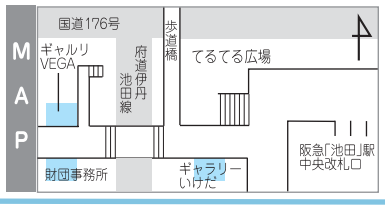
「眼にしみるやうな緑の田園と清らかな水に囲まれた気候温和、地味豊か、人情こまやかな歴史と伝統の中にとけこんで来た北摂一の古邑（こゆう）」「東西は狭く三・八二キロ、南北へ長く一〇・二八キロ、一八・〇〇三平方キロの地に七千七十二世帯、三万五千三百五十五人の市民」「最近三ヶ年間に四百十四世帯、三千八百九十八名の増加を示し、建設中の上水道完成に伴ふ工場の建設と住宅の増加とにより移住者はぐんぐん殖えるばかり」と本市を紹介しています。

戦時下の祝賀行事

折しも中国大陸での戦いが長期化し厳しさを増すなか、4年前の町村合併時に舞踊、漫才などの余興大会や運動会などが3日間にわたって催されたのと比べると、祝賀行事は随分簡素なものとなりました。それでも、4月29日は祝賀アーチで飾られた公会堂を会場にして、記念式典、祝賀会が催されました。市内各小学校の児童と宣真高等女学校（現宣真高等学校）、池田技芸女学校（現府立渋谷高校）の生徒約6000人が小旗を振っての祝賀行進が公会堂まで続きました。1000枚の祝賀ポスターが各所に貼られ、上空では飛行機が祝賀乱舞の飛行に、黄・赤・青色のビラ3万枚散布など、この日一日、本市は祝賀ムード一色となりました。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 小林良子・内田千代美二人展「花と葉っぱのコラボレーション」　4/1(水)～6(月)
- 第50回池田市美術展　4/12(日)～18(土)
- 慶野ことりexhibition（陶芸）　4/22(水)～27(月)
- 和服地ドレス展（佐谷敬子）　4/29(祝)～5/4(祝)

【ギャルリVEGA】

- 咲・フローレット「粘土クラフト展」　4/1(水)～6(月)
- 近藤雄士「木の家具展」　4/1(水)～6(月)
- 第50回池田市美術展　4/12(日)～18(土)
- 糸で綴る色彩と線の美刺繍展（石田澄江）　4/22(水)～27(月)
- 手作り「三人展」はなみずき　4/29(祝)～5/4(祝)
- 刻書展（桑名伸一）　4/29(祝)～5/4(祝)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで。市美術展は18：00までで、最終日は15：00まで）
【休館日】火曜日（4/14は開館）
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより52

五月ヶ丘古墳の陶棺

五月ヶ丘古墳は五月丘1丁目、歴史民俗資料館の東隣りにあります。復元され、現在、保存公開されています。今回は、『新修池田市史』第1巻にも掲載したこの古墳について、紹介しましょう。

陶棺とは

考古学会で、古墳の中に陶棺が安置されていたことが注目されるようになるのは、明治35年（1902）ごろからです。

陶棺は6世紀末から7世紀に、古墳や横穴墓に用いられた土製の棺（ひつぎ）で、その分布は岡山県から兵庫県にかけて集中し、大阪府、京都府、奈良県でも数例知られています。またその形式は亀甲形、四注家形、切妻家形などがあり、大阪府から兵庫県東部では主に四注家形が見られ、池田の周辺では豊中市太鼓塚古墳群、宝塚市平井古墳群で出土しています。

▲昭和48年の現地説明会

古墳発見の契機

昭和30年（1955）ごろ、五月ヶ丘古墳の付近一帯は柿畑でした。施肥の作業中、石室と陶棺が発見され、驚いた地主は市教育委員会と相談して、埋め戻して現状保存することにしました。

昭和48年、不動産業者がこの地を開発することとなったのを契機に、大阪府と池田市の両教育委員会が発掘調査を行いました。その結果、7世紀に築造された径約8（メートル）の小円墳で、陶棺を安置した無袖式の横穴式石室であることが分かりました。また、石室内からは須恵器が出土しました。

陶棺と須恵器は復元して五月山児童文化センター（現在は歴史民俗資料館）に展示し、石室は現地に埋め戻すことになりました。写真は当時の現地説明会のものです。

昭和53年、歴史民俗資料館が建設されることになり、翌年8月から復元調査が行われました。欠損していた石室は市文化財保護審議会委員・辰巳良一さんの指導により復元されました。また、封土の一部も整備され、屋根や柵なども設けられました。

復元した石室には当時池田中学校地歴部の顧問だった橘髙和明さんの指導で、作成された陶棺のレプリカを設置し、出土状況を一般に公開しました。

▲陶棺の前後にある穴

陶棺の穴の謎

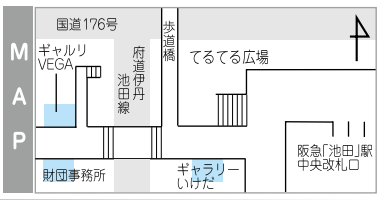
陶棺のふたは失われていましたが、棺身の形態や周辺の出土例から四注家形と考えられます。

棺身の前後には径5（センチ）の穴がありました。その形から穴には蓋もあったと考えられ、昭和48年の発掘当時、現地の調査員たちの話題となったのが、「古事記」の死と再生を象徴しているとされる「天の石屋戸」の物語と関連があるのか、あるいは窯で大きな陶棺を焼成する時のための穴かということでした。この論争は夜まで続きました。現在でもこの穴の用途はよく分かっていません。

（市史編纂委員会委員・富田好久）

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●和服地ドレス展（佐谷敬子）	～5/4(祝)
●大江山から木と織布のしつらえ展（大野博史）	5/6(休)～11(月)
●山本太郎作陶展	5/13(水)～18(月)
●櫻井聡絵画展	5/20(水)～25(月)
●たちおか帽子「墨絵」展	5/27(水)～6/1(月)

【ギャルリVEGA】

●手作り「三人展」はなみずき	～5/4(祝)
●刻書展（桑名伸一）	～5/4(祝)
●とんぼ玉・ランプ・ガラスアクセサリー展（賀内太一）	5/6(休)～11(月)
●手作り二人作品展（石川栄子・東浦紀子）	5/6(休)～11(月)
●桜島と椿展（塩屋信敏）	5/13(水)～18(月)
●ザ・スペース小品展	5/20(水)～25(月)
●遊・織・染・色	5/27(水)～6/1(月)

【開館時間】 10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】 火曜日
【入館料】 無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倍

愛宕火と作り物

今年も8月24日、池田の夏の風物詩である愛宕火（がんがら火）が盛大に行われます。現在、城山町や建石町をはじめとする祭礼関係の方々は、伝統の祭礼を守り伝えるため、暑いなか、たいまつづくりなどの準備で大変忙しくされています。

町中のにぎわい

江戸時代、愛宕火が行われる旧暦7月24日とその前後両日は、愛宕山（五月山）で献灯と相撲興行、町中では神さまを喜ばす風流（芸能・造作）としてだんじりのえい航、踊り、店先では作り物が出され、大変なにぎわいでした。この時代、大たいまつの巡行はまだ行われていませんでしたが、それでも、日常から解き放たれた「晴れ」のとき、池田の人々は胸を躍らせ、周辺の町や村からも多くの人々が池田に押し寄せました。

作り物とは

ところで、店先に出された作り物とはいったいなんでしょうか。作り物に関する記載は享保初年（1716年）ごろの『摂津池田名所記』が初見で、戦前まで各町ごとに競って作り物を出していたといいます。しかし、戦後になると次第に下火になり、昭和48年を最後に作り物は出されなくなりました。

その題材については『伊居太神社日記』（『池田市史』史料編②）宝暦9年（1759）の記録には、北ノ口に舟、新町に鷲、西ノ口に鞍馬天狗、西本町には京唐獅子、また、宝暦14年の記録には新材木町に城、田中町に熊谷直実・平敦盛が出されたと記載されています。時代は下り、昭和3年（1928）大阪毎日新聞の作り物に関する記事には「お半長右衛門」「壷阪」「乃木将軍」の名がみえます。また、地元の方のお話では『四谷怪談』など幽霊が流行した時期があったといいます。

このように、作り物とは人目に付く物事や物語の場面、当時の流行、著名人などを題材にした作品です。祭りの日、人々の気持ちを沸き立たせ、日常の生活を忘れさせる効果をもたらしたものと思われます。

作り物の写真

写真の作り物は、昭和36年、本町中央会で特選になった作品です。題材は商店連合会野球大会で、写真を趣味にされていた方のアルバムに唯一保存してあったもので、大変貴重な一枚です。野球が最も人気スポーツであった時代を感じさせます。

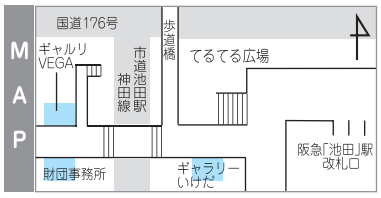
しかし、長い間、数々の作り物が作られたにもかかわらず、写真が残されていないのは非常に残念です。もし、作り物の写真をお持ちでしたら、ぜひご連絡をお願いします。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第3巻（近代編）は近日発売予定。第4巻（現代編）は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●山本多恵子作品展	7/1(水)～6(月)
●はるこ・たかこの２人展	7/8(水)～13(月)
●第４回野村素生油彩画展〝一足早い夏祭り〟	7/15(水)～20(祝)
●新水墨画若狭若州個展「四季の詩」	7/22(水)～27(月)
●奥畑司油彩展	7/29(水)～8/3(月)

【ギャルリVEGA】

●「四季の会」彩咲展	7/1(水)～6(月)
●現代精鋭作家展	7/8(水)～13(月)
●第９回ACF川西写真展	7/15(水)～20(祝)
●とんぼ玉・ランプ・ガラスアクセサリー展（賀内太一）	7/22(水)～27(月)
●池田市制施行70周年記念事業（21ページ参照）「芸能人サイン色紙展覧会」～名前当てクイズ～	7/22(水)～27(月)
●村上佳子作品展「ゆかいな動物たち」	7/29(水)～8/3(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊧

謎の石積寺

五月山のふもとに古代寺院があったことをご存じでしょうか。今回は、この古代寺院「発見」のエピソードを紹介します。

古瓦に関する記録

昭和48年3月のこと、大阪教育大学岩瀬昌登教授の研究室が移転することになり、私に考古学に関する資料があるので調査依頼がありました。そこで研究室に出向くと、陳列ケースの隅に、丸瓦、平瓦の破片が数点あり、この瓦の裏には「石積瀧入り口にて採集」と書かれていました。

石積寺跡遠景（中央竹藪付近）

その後、『摂津伊丹廃寺跡』（昭和41年伊丹市教育委員会刊行）に「池田市畑の石澄千軒といわれる地域に古瓦が出土し、その平瓦の凸面の叩き目が大柄の格子文で、伊丹廃寺の格子目、叩き平瓦と酷似していると、藤沢一夫によって指摘されている」という一文があることが分かり、岩瀬研究室の瓦との関係が注目されました。

さらに、『池田市史』史料編①に、某氏の戦前のメモとして、「大字東畑、石澄滝の入口、畑温泉より上手に当り、林地に至る間際の開墾畑から古代の平瓦片及び須恵器の破片等出づ。平瓦の文様は、菱格子と蓆文で裏に布目がある」とあり、これらの記録と岩瀬研究室の瓦から畑に古代の寺院跡の存在が推定されるに至ったのです。

白鳳天平時代の瓦発見

さらに昭和55年になって、岩瀬研究室の瓦が、渋谷の吉田勇氏（元池田市文化財専門委員）が昭和7年ごろ石澄滝から帰る途中に採集した瓦であることが明らかになりました。

そこで同年12月28日、私は当時勤めていた渋谷高校地歴部の生徒を引率し、吉田氏の案内で現地へ向かいました。竹やぶや旧道がなくなり、一帯は住宅地に様変わりしていました。それでも丹念に調査したところ、溝の中から1枚の古瓦を生徒が発見、これが契機となり、約100平方メートルの範囲で次々と瓦が見つかりました。

その後、数回にわたる調査の結果、7・8世紀の白鳳～天平時代の古瓦が約50点採集されました。こうしてこの場所に古代寺院「石積寺」と思われる寺院跡の存在が明らかになったのです（遺跡名は「石積廃寺」）。

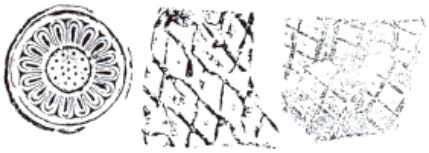
石積寺と秦氏

『日本書紀』によると、5世紀ごろの猪名川流域を中心とする一帯は、猪名県と呼ばれていました。7世紀代になると、猪名県は四つの氏族によって支配されていたと考えられています。その一つに池田を中心に支配していた秦氏と推定され、石積寺がその秦氏の氏寺である可能性が高いと思われます。

現在まで本格的な発掘調査が行われておらず、石積寺の構造や遺物の詳細は分かりませんが、近い将来、その全容が明らかになることを期待しています。

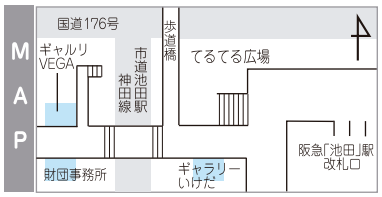
市史編纂委員会委員・富田好久

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）



平瓦凸面叩き目の比較図

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●奥畑司油彩展	～8/3(月)
●祐紀油彩画展	8/5(水)～10(月)
●中村幸枝作品展	8/12(水)～17(月)
●万島澄恵個展	8/19(水)～24(月)
●－ヒマラヤ紀行パート2－ 足立勇 水彩画展	8/26(水)～8/31(月)

【ギャルリVEGA】

●村上佳子作品展「ゆかいな動物たち」	～8/3(月)
●さむの会展	8/5(水)～10(月)
●手作り三人展～はなみづき～	8/12(水)～17(月)
●大阪大学美術部夏部展	8/12(水)～17(月)
●川辺浩個展	8/19(水)～24(月)
●第10回多賀保惠油彩展	8/26(水)～8/31(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

祝 刊行

『新修池田市史』第3巻（近代編）

～池田の歴史をお手元に～

複葉機から写した池田町（昭和３・４年ごろ）

市教育委員会では現在、池田の歴史をまとめています。多くの皆さまのご協力をいただき、このほど『新修池田市史』第３巻（近代編）を刊行しました。第３巻（近代編）では明治維新から太平洋戦争の終わりまでの池田の歴史を詳しく紹介しています。

明治という新しい時代を迎え、支配のあり方の著しい転換や交通革命が起こる中で、江戸時代に大いに栄えた酒造業や問屋業などの苦闘、そして商業都市から住宅・文教都市への変ぼうなど、現在の本市の姿を決定付ける大きな動きがありました。

昭和に入ると合併池田町の誕生や市制施行、水道整備など、まちの基盤が次々と整えられていく一方、戦争へと突入していく大きなうねりによって、池田は再び翻弄（ほんろう）される時代を迎えます。

そうした激動の時代下での市民の暮らしぶり、さらに伝統文化の継承と新しい文化の創造など豊富な史料をもとに、近代池田の歴史を満載しています。たくさんの未公開写真や表・図版も織り交ぜました。第３巻（近代編）の刊行により、既刊の第１巻（地理・考古・古代・中世編）、第２巻（近世編）、第５巻（民俗編）と合わせて、終戦までの歴史を通観できるようになりました。

箕面有馬電気軌道の線路工事（明治 42 年ごろ）

★池田市史の販売状況

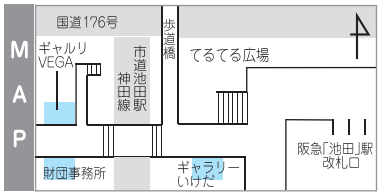
販売場所＝社会教育課、中央公民館、歴史民俗資料館、市史編纂事務室（旧城山勤労者センター）、市民文化会館、カルチャープラザ、(財)いけだ市民文化振興財団、耕文堂書店、甲川正文堂、ブックファースト池田店など

販売価格＝第１巻３５００円、第２巻４２００円、第３巻５４００円（新刊）、第４巻（編纂中）、第５巻４５００円

問い合わせ＝社会教育課市史編纂（☎７５３・２９０４）

※池田市史については図書館、石橋プラザ、市役所２階の行政情報コーナーなどでもご覧いただけます。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●森田文子個展	9/2(水)～7(月)
●作陶展及び墨彩画小品（多田節子）	9/9(水)～14(月)
●白井武志水彩画展	9/16(水)～21(祝)
●山本忠個展	9/23(祝)～28(月)
●角田郁夫四季彩画展	9/30(水)～10/5(月)

【ギャルリVEGA】

●第９回グループ“ 翔 ”展	9/2(水)～7(月)
●“ 老いをあそぶ ”二人展（小出鈴三・小出博子）	9/9(水)～14(月)
●グループ“ 創 ”展	9/16(水)～21(祝)
●第９回深山会会員展	9/23(祝)～28(月)
●今井画塾Delta展vol.Ⅶ	9/30(水)～10/5(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより倉

吉田町の埋納銭

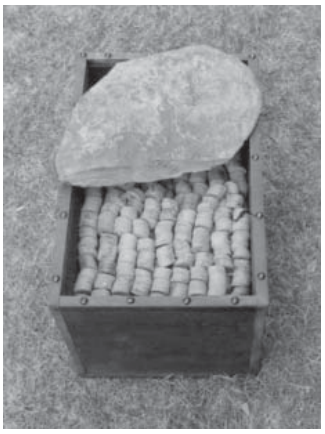
昭和46年（1971）4月2日、池田市土木課（当時）が吉田町310番地で市道拡張工事を行っていたところ、地中から大量の古銭が発見されました。この一報を教育委員会から受けた私は、大急ぎで現地に向かいました。

古銭出土の状況

現地に行くと、地表面から深さ60センチのところで、長さ40センチ、幅・高さとも25センチの木箱の痕跡が認められ、その中に古銭が納められていました。そして、木箱の上には半切した石でふたがされていました。

納められた古銭は当時の中国で作られた北宋銭が最も多く、後代の南宋銭や明銭も含まれていました。その数は合計で何と1万8317枚もありました。最も新しい鋳造年を示す銭は明代の1426～35年の年号を持つ「宣徳通宝」で、このことから、埋納されたのは室町時代のことと考えられます。

鎌倉時代から室町時代にかけては、貨幣経済の浸透により、もっぱら中国から輸入された銭が使用されており（日本で作った私鋳銭も出回っていましたが）、このこととも整合します。



復元された古銭埋納の状況

銭の使用法

出土した銭をよく見ると、その穴にワラを通して結ばれた状態になっており、「緡銭（さしぜに）」のままで埋納されていることが分かりました。銭は1枚、2枚で使われることもありましたが、ある程度高額の取り引きになると、数十枚の銭にひもを通してひとくくりにした「緡銭」として使用されました。

銭の単位は1枚で1文、100枚で10疋（ひき）、1000枚で1貫でしたが、鎌倉時代から室町時代では97枚、江戸時代では96枚を「緡銭」にして10疋とすることが慣用されました。これを「省百法（せいひゃくほう）」といい、この「省百法」は、奈良時代の銭貨「和同開珎」の時までさかのぼる可能性が指摘されています。

なお、換算するのは難しいのですが、現在の貨幣価値に置き換えると、吉田町埋蔵銭の時代の1文は、おおむね130～150円になるようです。室町時代後期から安土桃山時代のことですが、かわらけ1枚1文、旅籠代1泊2食付で24文、大工仕事の日当100文、戦で敵に捕られた人質身代金2貫文、というのが史料からうかがえます。

開元通宝（唐銭）　永楽通宝（明銭）

なぜ銭を埋めたのか

多量の銭を埋納する事例は、鎌倉時代から室町時代後期まで全国各地にあります。近隣でも能勢町山内で1万1000枚、宝塚市堂坂では古丹波焼のつぼ7個に20万枚、西宮市石在町では2万枚出土したという事例が報告されています。

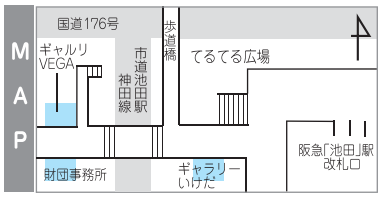
銭を埋納する理由としては、有事に備え必要時に掘り出して使用するという備蓄説、祈願や奉納を目的とした祭祀（さいし）説などがありますが、今でもよく分かっていません。

市史編纂委員会委員・富田好久

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

※『新修池田市史』発売中です。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●角田郁夫四季彩画展	～10/5(月)
●粟田尚子陶展	10/7(水)～12(祝)
●小川温子銅版画と水彩画展	10/14(水)～19(月)
●「ヨーロッパの光と陰」松浦敏夫銅版画展	10/21(水)～26(月)
●片岡宏幹金工展	10/28(水)～11/9(月)

【ギャルリVEGA】

●今井画塾Delta展vol.Ⅶ	～10/5(月)
●お・こ・ま・ひ展	10/7(水)～12(祝)
●第32回彩赤会展	10/14(水)～19(月)
●安食槇太郎新作展	10/21(水)～26(月)
●北摂春秋江原和足展	10/28(水)～11/9(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日（11/3は除く）
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倉

鉢塚古墳上から経塚発見

鉢塚２丁目の五社神社境内には巨石の横穴式石室で、大阪府史跡に指定されている鉢塚古墳があります。昭和39年（１９６４）４月、この石室に雨漏りがするということで、古墳頂上を掘って石室天井部をセメントでふさぐ作業を行っていたところ、突然、経塚に関する遺物が相次いで現れました。この知らせを宮司から聞いた私は、急いで現場に向かいました。

経塚発見の状況

経塚とは盛土をしてその中に仏教経典を納めたもので、平安時代の中ごろ、慈覚大師が唐から伝えたことに始まるといわれています。

鉢塚古墳の場合、古墳をそのまま塚として利用しています。頂上に穴を掘り、その中に鎌倉時代の須恵質の鉢をかぶせた須恵質の甕を入れていました。また甕の周りから一緒に納めた方鏡、短刀、白磁製合子、鉄製片口容器、宋銭などが出土しました。甕の中には径14・5センチ、高さ約30センチを測る銑鉄製の蓋付き筒状容器がありました。この筒状容器は経典を納めた経筒と思われますが、中には何もありませんでした。恐らく、経典は朽ち果ててなくなったものと思われます。

経塚発見の状況

末法思想と経塚

仏教には末法思想という、一種の歴史観があります。釈迦の死（入滅）後、正法・像法・末法という時代を経て、仏の教えが衰亡していくという思想です。

日本では平安時代の永承７年（１０５２）に末法の時代に入るという説が定着しました。折しも、武士の台頭や貴族政治の腐敗といった政治・社会秩序の荒廃、自然災害が相次いで起こり、人々の間で末法思想が一気に広がったのです。こうした社会不安の中、釈迦入滅から56億７千万年後、人々を救う弥勒菩薩が現れるまで、経典を保管して伝えていこうという目的から、各地で経塚が盛んに作られました。

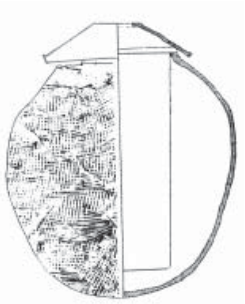
なお、鎌倉、室町時代になると、経塚は本来の目的から離れ、供養や祈願のために作られるようになりました。

池田に残る経塚

鉢塚古墳上の経塚は経典こそ残っていませんでしたが、一緒に埋納された遺物は良好に保存されていました。当時の人々の信仰を考える上で貴重なこれらの遺物は、本市の重要文化財に指定されています。

かつて、阪急「池田」駅の西側には「梅室」「姫室」と呼ばれる塚が、また、市役所の南には「村重塔」と呼ばれる塚がありました。梅室・姫室は明治42年（１８９９）、箕面有馬電気軌道㈱（現・阪急電鉄㈱）敷設に先立って発掘され、梅室からは三面の和鏡が出土しました。一方、姫室からは何も出土しませんでした。なお、「村重塔」は既に失われており、詳細は不明です。

平たん地にポッカリ土まんじゅうのように分布していたこれら三基の塚は、中世の人々が供養や祈願のために作った経塚だった可能性があります。



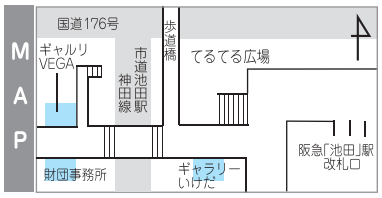
経塚に用いられた甕と経筒

市史編纂委員会委員・富田好久

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎７５３・２９０４）

※『新修池田市史』発売中です。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●片岡宏幹金工展	～11/9(月)
●河合絵一油彩展	11/11(水)～16(月)
●加藤信子個展	11/18(水)～23(祝)
●汪洋洋画展	11/25(水)～30(月)

【ギャルリVEGA】

●「北摂春秋」江原和足展	～11/9(月)
●工房ハバナロマン教室の展示会 －花と葉っぱのコラボレーション－	11/11(水)～16(月)
●北典子展（陶）	11/18(水)～23(祝)
●近藤雄士「木の家具展」	11/18(水)～23(祝)
●「手作りハウス」	11/25(水)～30(月)
●井手津久雄陶芸展	11/25(水)～30(月)

【開館時間】10:00～19:00（～11/９は18:00まで）、いずれも最終日は16:00まで
【休館日】火曜日（11/3は除く）
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

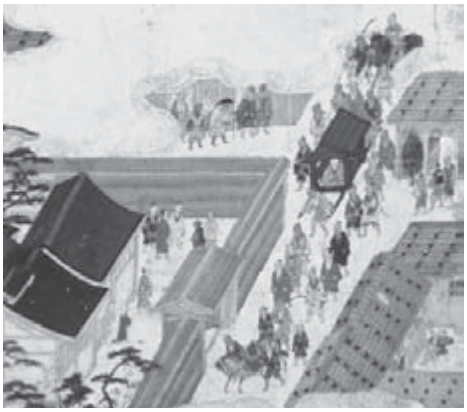
使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊱

「毛氈鞍覆と池田氏」①

上杉本「洛中洛外図屏風」の貴人の行列



上杉本「洛中洛外図屏風」（部分）、米沢市上杉博物館所蔵

戦国時代について、「麻のごとく乱れた」とか、「下剋上時代」といった表現がよく使われます。これが戦国期社会の一面をよくとらえていることはいうまでもありません。しかし人間の社会が単純に割り切れるようなものでないことは、いつの時代も変わりません。武家社会の身分秩序は室町幕府三代将軍・足利義満のころから整備され、身分・格式や武家故実が確立していきますが、こういった問題に広く関心が寄せられたのも戦国時代の一つの特徴でした。

この時代の将軍が大名や有力国人に授与したステイタス・シンボルともいうべきものに、毛氈鞍覆（もうせんくらおい）・白傘袋があります。当時の京都の風俗を今に伝える上杉本「洛中洛外図屏風」にも描き込まれています。それが左隻第三・四扇の輿（こし）に乗る貴人の行列図です。

毛氈鞍覆とは引馬の鞍を覆う毛氈の覆いのことで、公方（将軍）邸の門前の方へ向かう行列の先頭の馬にかけられています。また、白傘袋とは長柄の妻折傘を入れる白い袋のことで、輿のすぐ後ろの人物が担いでいます。

毛氈鞍覆・白傘袋の資格

外出時に威儀を示す赤い毛氈鞍覆の引馬が許される者について、中世の故実書などには「引馬の事」として、次のように記されています。

「三職・御相伴衆・吉良殿・石橋殿・土岐殿・六角殿、いづれも輿の先へ引かれ候。その外の衆ハ輿の跡に引かれ候。又、赤き毛氈の鞍覆ハ、公方様の御物の外ハ、大名随分の衆ばかり、いにしへハ懸けられ候つる」

すなわち、三職（三管領）・御相伴衆（大名のうちから特に器量を選ばれ公方様お成りのときにお相伴した者）、吉良・石橋（足利一族）、土岐・六角（国持衆）の場合は輿の前、そのほかは輿の後と、その行列における引馬の位置まで定められています。毛氈鞍覆の使用は公方と「大名随分の衆」に限定されていました。

白傘袋についても故実書は公家門跡のほか、「武家には大名その外随分の衆ならではさされ候はず」と述べています。これらが決して空文でなかったことは、先の貴人の行列図から確認されます。本来は守護大名そのほかの有力者に限られた特権だったのです。

ところが、戦国期になると状況が大きく変わってきます。これまで授与の範囲外におかれていた新興の国人らにも、着用が許されるようになりました。有名な上杉謙信もその一人ですが、池田氏はその先駆的な存在でした。

さて、これから三回にわたり、池田氏の毛氈鞍覆にまつわる問題を取り上げていきます（次回へ続く）。

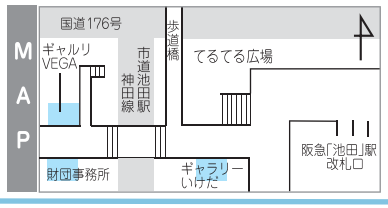
市史編纂委員会委員・丹生谷哲一

☆池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第3巻5400円、第5巻4500円。第4巻（現代編）は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●造形作家・西村滋展 －造形作家が描いた200人－「ひと・人・ヒト」 1/6(水)～11(祝)
- ●木村雅年「ポーランド紀行」 1/13(水)～18(月)
- ●櫻井聡「イタリアを描く」展 1/20(水)～25(月)
- ●染・二人展（森光男・山本正二） 1/27(水)～2/1(月)

【ギャルリVEGA】

- ●勝山正則木版画展 1/6(水)～11(祝)
- ●新春互次元展 1/13(水)～18(月)
- ●新春ほっと展 1/20(水)～25(月)
- ●第11回京都きもの絵師とその仲間達展 1/27(水)～2/1(月)

【開館時間】10:00～19:00（1/13～18のギャラリーいけだは18:00まで、1/6～18のギャルリVEGAは11:00～18:00）、最終日は16:00まで
【休館日】～1/5(火)、火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより個

「毛氈鞍覆（もうせんくらおおい）と池田氏」②

池田氏に毛氈鞍覆・白傘袋御免

新興の戦国大名や国人へ毛氈鞍覆・白傘袋の特権が付与されるようになったのは、室町幕府12代将軍足利義晴から次の義輝にかけての時期（1521～65）で、十数例が知られています（左表）。

池田氏がこの特権を得たのは天文8年（1539）のことです。将軍義晴の内談衆・大館常興の日記の同年12月26日条に、次のように記されています。

京兆被官池田筑後守事、せんくらおふひ（氈鞍覆）・白キかさふくろ（傘袋）御免之事望申候。仍各御談合之処、如此引懸在之上者、御免可然候由、内談衆各へ被申之

「池田筑後守（久宗）」が毛氈鞍覆・白傘袋御免の格式を望み申し出て、内談衆らの支持を得て、将軍義晴に上申されています。

注目されるのは、これが「摂津国衆」では初の栄誉だということです。その後、三宅国村（天文10年）、芥川孫十郎（天文11年）にも同様の特権が認められます。

足利義晴・義輝期の毛氈鞍覆・白傘袋御免

	年　代	免許者
足利義晴期	大永２（1522）	三雲源内左衛門（六角氏被官）
	〃 3	浦上村宗（播磨守護代）
	享禄１（1528）	長尾為景（越後守護代）
	天文８（1539）	池田久宗（摂津国人）
	〃 10	三宅国村（摂津国人）
	〃 11	芥川孫十郎（摂津国人）
足利義輝期	〃 18 ?	陶隆房（周防守護代）
	〃 18 ?	杉重矩（豊前守護代）
	〃 18 ?	内藤興盛（長門守護代）
	〃 18 ?	飯田興秀（大内氏被官）
	〃 19	長尾景虎（上杉謙信）
	弘治２（1555）	桑折貞長（伊達氏被官）
	永禄初め（1558～）?	松浦隆信（肥前国人）

二木謙一『中世武家儀礼の研究』（1985）から作成

武人としての池田氏

日記中の「京兆」（右京大夫）というのは、摂津国守護細川氏の家督を指し、ここでは幕府管領の職にもあった細川晴元のことです。池田氏は有力な細川被官（家来）として知られていました。

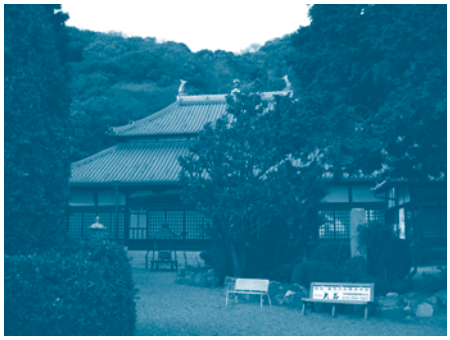
応仁の乱（1467）では細川勝元が大将を務める東軍方として、池田充政が騎馬12騎、野武士千人を率い参戦し（『後法興院記』）、西軍の援軍として山口より出兵した有力守護大内政弘から池田城攻めを受けたこともあります（『経覚私要鈔』）。

細川家分裂においても、澄元・晴元父子方として活躍しました。澄元が家臣に裏切られ高国が家督に擁立された永正5年（1508）には、池田貞正は高国方に籠城戦を挑みます。「国中に同心するものなき」状況のなか、孤軍奮闘の末、同名衆20余、雑兵70余とともに壮絶な死を遂げます。これを軍記『細川両家記』は、「かようにふるまひける事よ、大剛の者哉とかんぜぬ人こそなかりけれ」と、貞正をたたえています。

池田久宗も長年、晴元方として活躍したことが同記にみえ、「市史編纂だより48」でも紹介されています。

このような武人としての活躍によって、毛氈鞍覆・白傘袋という栄典に浴したと考えられます。しかし理由はそれだけでしょうか。ほかの要因も探ってみましょう（次回へ）。

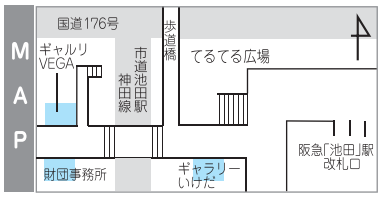
市史編纂委員会委員・丹生谷哲一



池田貞正が自害したと伝えられる大広寺

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●庶民芸術の華「てぬぐい百年展干支」　2/3(水)～8(月)
- ●前山鈴恵墨彩展　2/10(水)～15(月)
- ●藤沢裕子木彫刻展　2/17(水)～22(月)
- ●石澤薫美・西川喜雄二人展　2/24(水)～3/1(月)

【ギャルリVEGA】

- ●庶民芸術の華「てぬぐい百年展」　2/3(水)～15(月)
- ●梅花女子大学短期大学部卒業制作展「生活の美・アート展」　2/17(水)～22(月)
- ●久永裕子リトグラフ展　2/24(水)～3/1(月)
- ●心をいやすわらもじ展　2/24(水)～3/1(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより 倌

「毛氈鞍覆（もうせんくらおおい）と池田氏」③

池田氏が摂津国人でいち早く毛氈鞍覆・白傘袋御免の特権を得た理由について、前回は武人としての活躍を指摘しました。今回はさらに別の角度から迫ってみたいと思います。

毛氈鞍覆・白傘袋御免の相場

近代に入るまで、日本で最も基本的な身分秩序として機能したのは古代の律令官位でした。戦国時代になると毛氈鞍覆などの格式と同様、従来の秩序では手が届かなかった官位でも大名・国人が任官する例がみられます。織田信長は正二位・右大臣に昇進しますが、これは室町幕府の将軍に匹敵します。官位叙任の形式的な手続きは朝廷が担い続けたため、任官する大名・国人と朝廷との間では任料・礼銭という金銭授受が行われました。大名・国人側では自己権力の権威付けの手段として、朝廷側では貴重な収入源として、右のような任官事例が頻発します。そのため、官位のランクごとにおおよその相場が決まっていきました。

毛氈鞍覆・白傘袋御免でも、大名・国人と室町幕府との間で同様の関係が結ばれていました。摂津国で池田氏に次いでこの特権を得た三宅氏の場合は、12代将軍足利義晴へ「御馬・太刀・三千疋」、長尾景虎も13代将軍義輝に「御太刀一腰・青銅三千疋」を献上したとあります。三千疋とは、現在の金額に換算すると、約三百万円です。池田氏について記されたものは残っていませんが、このあたりが相場だったのでしょう。

このことから毛氈鞍覆・白傘袋の特権の獲得には、経済力も重要な要素となっていたことが分かります。

「富貴栄華の家」池田氏

池田氏は相当な経済力で知られた国人でした。その富貴ぶりがもっともよく表現されているのは、京都相国寺の僧・季瓊真蘂の日記『蔭涼軒日録』です。

文正元年（1466）2月、真蘂は侍所所司代多賀高忠や播磨守護代浦上則宗らを伴って、摂津国有馬に湯治に出掛けます。同月末に有馬に到着して以後20日余りの滞在中、多くの文人や武人が訪れ、浦上の宿所では百韻連歌が催されています。

池田充政は真蘂が有馬に着いた二月末に、早速その宿所を訪ねて好を通じています。その後も真蘂の日記には「当国池田筑後守、その子民部丞と曰う。尤も富貴無双なり」とか、池田氏が宿坊から入浴へ向かう際には、人々が「富貴栄華の家」池田氏の周囲に群集したことなどが記されています。

もっとも興味深いのは、「池田一月の子母銭、これ千貫文。しかればすなわち一年一万二千貫文なり。一年中の米子一万石を収むと云う」の記述でしょう。金融も営む池田氏は利子（米子）収入だけで年に米一万石を得たというのです。

しかし、何よりも重要なことは毛氈鞍覆・白傘袋御免というのはステータス・シンボルの問題で、池田氏がただ富貴の人というのではなく、文人・武人としても、いかに優れていたかということです（次回へ）。

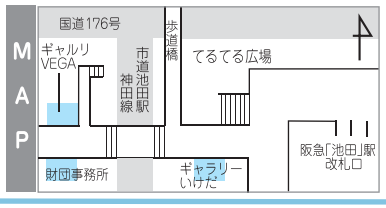
市史編纂委員会委員・丹生谷哲一

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

※『新修池田市史』は好評発売中。

池田充政（大広寺所蔵）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●「ISLAND LIFE」（絹絵・島の生活）ジュディス・リッター　～4/5(月)
- ●第51回池田市美術展　4/11(日)～17(土)
- ●日下部弘幸・和子二人展（パステル画・木彫）　4/21(水)～26(月)
- ●上田雅司銅版画展　4/28(水)～5/3(祝)

【ギャルリVEGA】

- ●キルティングikkoのパッチワーク展　～4/5(月)
- ●第51回池田市美術展　4/11(日)～17(土)
- ●第３回伊澤友梨墨彩画教室作品展　4/21(水)～26(月)
- ●「生活の陶器と絵画親子展 中村和雅・中村寛」　4/28(水)～5/3(祝)
- ●手描き染色しらゆり会展　4/28(水)～5/3(祝)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで、池田市美術展は10：00～18：00で最終日は15：00まで）
【休館日】火曜日（13日は除く）
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより館

「毛氈鞍覆と池田氏」④

文人としての池田氏

文人としての池田氏については、宗祇や牡丹花肖柏、招月庵正広といった中世を代表する連歌師や歌人らとの交流などが、『新修池田市史（第一巻）』に詳述されています。肖柏や正広などは実際に池田に居住していたわけですが、ここでは細川被官摂津国衆のなかで池田氏が占めていた位置を考えるうえで重要と思われることを、二つ挙げておきます。

①『新撰菟玖波集』入選

『新撰菟玖波集』は明応4年（1495）に宗祇らによって編まれ、勅撰に準ぜられた連歌集です。これに入選している摂津の国人は12人で、すべて細川被官です。そのうち7人までが池田同名衆、残りの5人は伊丹氏・芥川氏・瓦林氏・能勢氏・塩川氏各一人です。摂津国衆の文人の中で池田氏がいかに傑出していたかを示しています。

②『池田千句』興行

これは永正6年（1509）に池田正盛によって興行されたものです。永正6年といえば、前々回紹介した細川高国方の攻撃によって池田城が陥落、池田氏の家督が細川澄元方の貞正から高国方の正盛に移った翌年に当たります。千句というのは百韻連歌十巻からなります。その百韻の発句作者のうち7人は肖柏ら専門の連歌師ですが、残りの3人はすべて池田氏（正盛・正棟・道泉）でした。

このように武勇・経済だけでなく、文化にも秀で、摂津国衆の筆頭的立場にあった池田氏だからこそ、毛氈鞍覆・白傘袋の栄典を受けることができたのでしょう。

上杉本「洛中洛外図屏風」の毛氈鞍覆

さて、ここでもう一度、狩野永徳筆の伝承を持つ上杉本「洛中洛外図屏風」に注目してみましょう。

屏風には赤い毛氈鞍覆を懸けた馬が6頭描かれています。「公方様」の周辺に3頭、「武衛」邸に2頭、「細川殿」と「典厩」（管領細川氏庶流家）邸の境に1頭です。「武衛」邸とは、もともとは管領斯波氏の屋敷を意味しましたが、斯波氏は早くに没落して、このころは〝もう一つの将軍御所〟となっていました。とすれば、これら毛氈鞍覆の馬6頭が、決して思いつきで描かれているのでなく、いわば公方様の権威の標識として配されているということが分かります。

ところで、武衛邸の門前で闘鶏を見物している右図について、中央の少年は天文15年（1546）に11歳で将軍職を継いだ足利義輝、その右手3人目の袴を着た人物は父である大御所の義晴で、闘鶏は幼主将軍位の安泰を予祝する場を描いたものではないか、という説が出されています。

義輝を擁立したのは細川晴元です。右の説が正しければ、その場に毛氈鞍覆の馬を描いた狩野派の絵師の念頭には、細川被官にして、摂津国衆の盟主的存在であった池田氏への想いもあったのではないでしょうか。

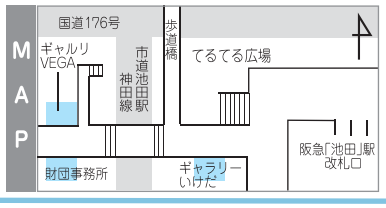
（市史編纂委員会委員・丹生谷哲一）

▲上杉本「洛中洛外図屏風」（部分）
米沢市上杉博物館所蔵

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

※『新修池田市史』は好評発売中。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●上田雅司銅版画展	～5/3(祝)
●「墨の絵」宮本信代	5/5(祝)～10(月)
●早瀬健二遺作展	5/12(水)～17(月)
●橋本多嘉子洋画展	5/19(水)～24(月)
●船越修日本画展	5/26(水)～31(月)

【ギャルリVEGA】

●生活の陶器と絵画親子展（中村寛・中村和雅）	～5/3(祝)
●手描き染色しらゆり会作品展	～5/3(祝)
●徳治昭童画展～ほっこりワールド～	5/5(祝)～10(月)
●第５回若宮一成展‘棚田・あづみ野風景’	5/12(水)～17(月)
●陶工房悠作品展	5/19(水)～24(月)
●初夏の花と楽焼（濵野武司・浜野八千代）	5/26(水)～31(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）